UNIVERSITY OF YAMANASHI HOSPITAL

はなみずき
（病院だより）

第63号
2014年1月1日
発　行
山梨大学
医学部附属病院

病院の理念

一人ひとりが満足できる病院

私たちは、本院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくります。

病院の目標

- **共に考える医療**　患者さんの人権を尊重し、患者さんを中心とした、共に考える人間性豊かな医療を目指します。
- **質の高い安全な医療**　特定機能病院として高度の医療を実施するとともに、医療の安全に最大限の注意を払い、患者さんのＱＯＬ（クオリティ･オブ･ライフ）が向上できる安心･安全な医療を目指します。
- **快適な医療環境**　患者さんに、最適な医療を提供できる医療環境の整備を目指します。
- **効率のよい医療**　適切な人的配置とともに、医療情報管理システムを活用し、医療の効率化を目指します。
- **良い医療人の育成**　人間の尊厳を守り、専門性を高めつつ国際性豊かな医療人を育成するため、充実した医療教育を目指します。

新年のごあいさつ

病院長　島田　眞路

あけましておめでとうございます。

昨年本院も開院30周年を迎え10月25日に大々的に記念式典、祝賀会を開催することができました。文部科学省から山中伸一事務次官、佐野太会計課長にご臨席賜りました。県出身の2人の高官のご来臨を得たことは幸いでありました。山梨県からは横内正明知事、山下誠福祉保健部長、薬袋健山梨県医師会長、また県選出の7名の国会議員の方々、田中久雄中央市長などにご臨席賜り大変うれしく、喜ばしく思っています。記念講演会では田中紘一京都大学名誉教授のすばらしいご講演をいただきました。野田嘉明同窓会長、渡邉浩二医学部後援会長からもお祝いの言葉を頂戴いたしました。ご招待者の方々のお心のこもったスピーチの中で本院を地域の中核病院、県内唯一の特定機能病院として極めて高くご評価ご信頼下さっていることがひしひしと伝わってきました。改めて身の引き締まる思いです。

病院再整備ですが、駐車場に関しては本当に皆様にご迷惑をおかけしております。本年4月には新しい4階建て駐車場が運用開始（エレベータについては5月運用開始予定）となりますので今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。新病棟も着々と建築が進み、昨年12月には耐震の基礎工事が終了し、いわゆる土台は完成しました。いよいよ今年は建物部分の建築が開始される予定です。また昨年11月にはモデルルームを公開することができました。皆様の貴重なご意見をいただきましたので、これを積極的に取り入れて、長年の夢、待望久しい新病棟建設に向かっていきたいと思っています。

昨年の研修医マッチングでも、32名70%と最近ではよい成績でした。県においても58名74%とここ数年では最高のマッチ数･率でした。平成22年度の16名、27%、全国でラスト3、県でも36名、ラスト2であった時と比べると隔世の感があります。これも皆様とともにマッチ率向上のため、あらゆる努力を惜しまなかった賜物と考えています。この結果に満足することなく、さらに研修医や入局者を増やすためがんばっていきたいと思っています。

本年も皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

開院３０周年記念事業について

副病院長（開院３０周年記念事業企画推進委員会副委員長）　藤井　秀樹

あけましておめでとうございます。今年が皆様と本院の更なる発展の年になるよう心より願っております。

さて、昨年10月25日、皆様の大きな期待と夢が込められた２年後の新病棟完成を視野に入れた中で、「山梨大学医学部附属病院開院30周年記念式典」が甲府富士屋ホテルで開催されました。出席していただきました多くの皆様方、また記念式典開催にご尽力された職員の皆様に感謝申し上げます。

式典は島田眞路病院長の式辞に始まり、前田秀一郎学長の挨拶、そして山中伸一文部科学省事務次官、横内正明山梨県知事、薬袋健山梨県医師会長からご祝辞をいただきました。本院が歩んできた長く重い歴史に今さらながらに思いを馳せるとともに、本院に寄せられている大きな期待も感じるもので身の引き締まる思いがいたしました。

記念講演会では、神戸国際フロンティアメディカルセンターの田中紘一先生から「医療の新しいパラダイムを目指して」という内容でご講演いただきました。これからの本院の目指す方向をお示しいただいたように思います。

ついで、祝賀会が和やかな雰囲気のなか進みました。野田嘉明医学部同窓会長、渡邊浩二医学部後援会長をはじめ多くの方からご祝辞をいただき、本院がこれまで多くの方々に支えてきていただいたことをあらためて感じました。

附属病院30周年を大きな節目として、さらなる高みをめざし一歩一歩ともに歩んで参りましょう。

式辞を述べる島田病院長

挨拶の言葉を述べる前田学長

開院 30 周年記念式典の様子

祝辞を述べる山中文部科学省事務次官（左）、横内山梨県知事（中央）、薬袋山梨県医師会長（右）

祝賀会での鏡割りの様子

乾杯の発声をする武田医学部長（中央）

記念講演会で講師の紹介を行う藤井副病院長

講演する田中神戸国際フロンティアメディカルセンター理事長・京都大学名誉教授

祝辞を述べる佐野文部科学省大臣官房会計課長（左端）、野田同窓会長（左から２番目）、渡邊後援会長（右から２番目）、田中中央市長（右端）

副看護部長就任あいさつ

副看護部長　井上　貴美

昨年の８月より看護部の教育担当副看護部長に就任しました。本院では７階西病棟と７階東病棟に勤務し、平成15年には緩和ケアチームの立ち上げのため看護部管理室に異動しました。麻酔科の飯嶋哲也医師と共に病棟回診を開始し、最初の依頼があったときのうれしさは忘れられません。依頼件数は年々増加しており、ここ数年は良性疾患や検査や治療時の苦痛緩和の依頼が多くなっています。これは、緩和ケアの対象が悪性疾患のみではなく、良性疾患であっても苦痛緩和が必要であること、がんの終末期だけでなく、がんと診断された時期や治療中であっても精神面の支援や苦痛緩和が必要であることが病院内に浸透してきていることであると考えます。

平成19年には「緩和ケア認定看護師資格」を取得することができました。半年の間に座学と緩和ケア病棟での実習を受け、じっくりと患者さんと向き合いました。その中で、その人の大切にしていることや生き方のありようを学びました。そして何よりもその人そのものをありのままに受け止めることの大切さを感じることができました。これらの学びを大切にしながら緩和ケアチームで活動をしました。実践の中でも「逃げずに向き合うことや傾聴すること」を大切にしました。そして様々な人生を知るうちに「人は全て大切にされるべき存在である」と思えるようになりました。緩和ケアは看護の根底に流れるものであると考えます。今の役割を通して緩和ケアで学んだことを実践していけるように今後も努力していきたいと思います。

平成２５年度医師臨床研修マッチング結果について

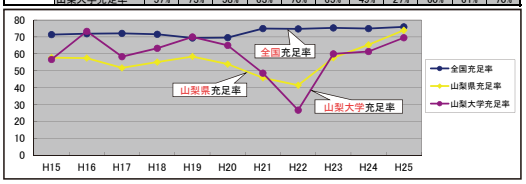
臨床教育センター長　板倉　淳

平成22年の「16人問題」を受け発足した臨床教育センターも３度目のマッチングを迎えました。今年度は卒業予定者が86名であるため、昨年並みないしは減少の可能性も憂慮しておりましたが、最終的に32名（学外２名）のマッチングとなり、回復傾向を維持する事ができました。新設16大学の中では、率･実数ともに５位で、42国立大学の中では、マッチング率で18位、実数で21位という結果となりました。さらに山梨県全体としては58名（マッチング率74％）となり、新臨床研修制度開始以来、率･実数ともに過去最高となりました。これらの結果は、一丸となって研修環境･待遇の改善、信頼回復に御尽力いただいた皆様方のご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。県全体の上昇傾向につきましても、県内唯一の医育機関として県内臨床研修病院との連携強化に努め、様々な取り組みを行ってきた事が、学生にも認められつつあるものと理解しております。

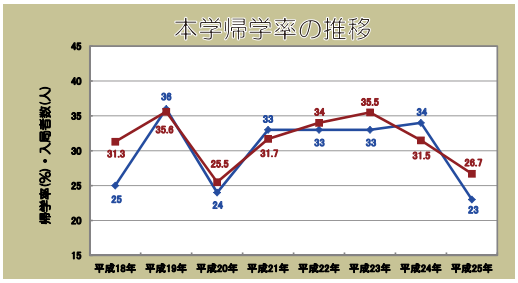
しかし、大学としての底力、県全体の将来の医療レベルの向上と充実のためには、初期研修終了後の３年目以降の本院での専門医研修、研究医研修が重要である事は言うまでもありません。この点については、残念ながら16人問題の影響により25年度の帰学率（入局者数／卒業者数）は26.7％で、帰学者数23名は過去最低となりました。したがって16人問題からの真の回復を評価するためには来年度以降の帰学率が重要と考えております。すなわち魅力ある後期研修プログラムの提供が重要であり、各診療科のご努力に期待するとともに、センターとしてもさらなる支援を進めていくつもりです。

マッチング結果推移

		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
全国	全国充足率	71%	72%	72%	72%	69%	70%	75%	75%	75%	75%	76%
山梨県	山梨県定員数	71	80	87	87	89	89	107	87	78	75	78
	山梨県内定者数	41	46	45	48	52	48	49	36	45	49	58
	山梨県充足率	58%	58%	52%	55%	58%	54%	46%	41%	58%	65%	74%
山梨大学	山梨大学定員数	60	60	60	60	60	60	70	60	50	44	46
	応募者数	85	80	93	72	81	85	66	42	59	78	61
	山梨大学内定者数	34	44	35	38	42	39	34	16	30	27	32
	山梨大学充足率	57%	73%	58%	63%	70%	65%	49%	27%	60%	61%	70%



引き続き、全学をあげてのご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



駐車場整備への協力について

医学部事務部長　白沢　一男

病院再整備事業に合わせて、念願の患者用立体駐車場の建設が始まりました。

この間、患者さんを始め、教職員、学生の皆様には、大変なご迷惑をお掛けしております。患者さんのためには、遠くなった駐車場から外来玄関までの歩道の整備や、ベンチの設置、障害者スペースの確保など、少しでも患者さんのための対策を取っていきます。

また、教職員、学生の皆様には、狭くなった駐車スペース、特に事務職員の皆様には、学外の駐車場への駐車と大変なご苦労をお掛けしております。

今年3月には、平面駐車スペースと合わせ約600台収容可能な立体駐車場が完成し、4月から運用開始いたします(エレベータについては5月から運用開始予定)。また、この駐車場は、災害発生時等、緊急時には駐車場の一部を屋外臨時診察スペースとして利用できる仕組みを取り入れています。

完成しますと、患者さんには、駐車場が一箇所に集中し、障害者駐車スペースも十分確保されることになり、教職員、学生の皆様にも元の駐車スペースが確保されることになります。

残りの期間、皆様のご理解により、急場をしのぎたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

病院再整備関係のお知らせ

病院経営企画室　再整備企画グループリーダー　佐藤　康樹

病院再整備事業につきましては平素より病院スタッフの皆様には多大なるご協力を賜り、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

新病棟の工事は順調に進み、土台となる基礎コンクリート及び耐圧コンクリートも仕上がり、いよいよ災害対応のための「免震装置」を設置する工程となっております。この免震装置は地震災害に備えるための設備であり、強い震度の地震においても、その揺れを緩和し、建物内の人々や設備を守るものであります。

ただし、地震の際に全く揺れを感じないかと言いますと、そうではなく、「ゆっくりと船にゆられているような感覚」で地震の強い揺れを感じさせない仕組みとなっております。

この免震装置作業が終わりますといよいよ1階部分から徐々に建物が立ち上がって参ります。

免震装置設置工事の状況

現在、新病棟モデルルームを1階西病棟前に設置しております。モデルルームには本体同様の設備を配置しておりますので、是非とも皆様にご覧いただき、室内に配置されたスイッチの高さ等、不具合が無いかご確認をいただきたいと存じます。皆様からのご意見を本体工事に反映させ、より利便性の高い建物に仕上げて参りますので、何卒、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

再整備工事期間中は騒音等、皆様にはご迷惑をお掛けすることも多々あるかと存じますが、引き続き事業へのご理解･ご協力をよろしくお願い申し上げます。

モデルルーム外観

モデルルーム内部の様子
(スタッフステーション)

抗悪性腫瘍剤等レジメン審査について

腫瘍センター長　桐戸　敬太

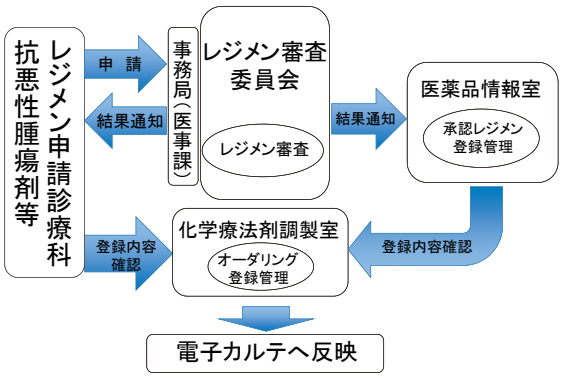
本院では、平成21年度より院内で使用する抗悪性腫瘍剤（抗がん剤）は、一括して抗がん剤調製室で調製する体制をとっています。同時に抗がん剤治療レジメン（抗がん剤の量や組み合わせ、使用日などの情報）についても登録制とし、抗がん剤を安全かつ有効に使用する取り組みを進めてきました。

今回、さらにこのシステムを進化させ、各診療科で新たに使用を開始する予定の抗がん剤レジメンについて、登録のみでなく審査を行うこととなりました。審査委員には、診療科の医師のみならず、薬剤部やがん化学療法看護認定看護師、外来通院治療センター看護師及び事務職員も加わっています。新たな抗がん剤レジメンについて、きちんとしたエビデンスに裏付けされたものであるのか、有害事象発生の可能性、実際の投与にあたってはどのような注意が必要であるのかなど、それぞれの専門性に基づいた多角的な視点から審査を行う予定です。抗がん剤を用いる診療科の先生方におかれましては、お手数をお掛けすることになりますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

なお、審査には１週間から10日くらいを要することを予想しております。このため、新たな抗がん剤レジメンの使用をご検討する場合には、余裕をもって審査申請を提出くださいますようお願いいたします。

問い合わせ窓口　① 化学療法剤調製室（内線3207）
② 医薬品情報室（内線3194）

抗悪性腫瘍剤等レジメン審査の流れ



災害対策相互訪問事業について

防災対策委員会委員長　松田　兼一

本事業は国立大学附属病院が相互訪問することによって災害対策に関する能力の底上げや標準化を図るために今年度からスタートした事業です。当院は信州大学医学部附属病院と相互訪問致しました。

本院の災害対策は歴史と実績があるので参考にさせて頂きたいとの信州大学からの意向で、本院からまず訪問を受ける事になりました。昨年10月７日に医師１名、看護師１名、事務３名の計５名が来院されました。63項目にわたる詳細なチェックを受け、合格との評価を頂きました。特にマニュアルにおいては、表紙を閲読することにより各自が行うべき行動が理解できる点と、マニュアルから該当部分のみを取り外し災害対策本部へ報告を行う形式とされている点が高く評価されました。さらに、大規模トリアージ訓練が毎年開催され、医学部授業の一環と位置づけされている点にも高い評価を頂きました。

一方、我々（村松ＧＲＭ、小林管理課長、功刀防災･災害対策職員、萩原管理課係長、井尻管理課係長、松田）は11月21日に信州大学を訪問し、防災訓練とトリアージ訓練を同時に見学致しました。マニュアルはアクションシートを軸に作成されており、参考となる点が多々ありました。同時に本院のマニュアルの良いところを積極的に取り入れて下さっており、今後とも相互に刺激し合いましょうとエールを交わしました。また、信州大学ではトリアージ訓練は今年度で２回目ということでしたが、近隣住民30名が傷病者役として参加して下さっており、地域に密着した訓練との印象を強く持ちました。

今回の相互訪問事業を通じて、直近の大学附属病院間で顔の見える関係を築けたことは、いざというときにお互いに大変重要になると強く感じました。

信州大学訪問時における
マニュアルチェック風景

チームワークと医療安全

GRM（ゼネラルリスクマネージャー）　萩原　千代子

新年明けましておめでとうございます。

安全管理室が新体制となって９カ月が経過しました。私自身 GRM としての役割の変化を受け入れながら、日々インシデント事例と向き合い、安全管理について取り組んできました。医療安全は、患者さんと医療者の両者にとって非常に重要な課題であり、永遠に続く課題でもあります。

現在、医療安全の分野では「ノンテクニカルスキル」が重要視されています。まだ聞きなれない方も多いと思いますが、「テクニカルスキル」とは、いわゆる専門的な知識や技術であり「ノンテクニカルスキル」とはコミュニケーション･チームワーク･リーダーシップ･状況認識などの総称です。これらは、安全の質の確保にも必要なことであると言われており、「チーム力の向上」が鍵となるのではないかと考えています。今年度は、院内研修でも「チームステップス研修」を実施し、職員への浸透を図っています。私が看護管理者として大切にしている事も「働きやすい職場環境を維持するためのコミュニケーションを大切に、お互いに話しかけやすいような態度と雰囲気づくり」です。

本年も「病院全体がひとつのチーム」を実践するべく、病院職員の皆さんとともに、質の高い安全な医療を提供することを念頭に安全管理に取り組んで参りたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

安全研修会風景

公立志津川病院での研修を終えて

研修医　玉井　望雅（みのり）

昨年８月、私は公立志津川病院で地域医療研修をさせていただきました。公立志津川病院は御存じの通り、平成23年３月11日、未曾有の大地震に見舞われた南三陸町の中核病院です。あれから２年半が経ちましたが、地震の影響は今でも色濃く残っています。例えば、多くの人々が今も仮設住宅を退去出来ずにいます。公立志津川病院は津波のため取り壊され、同病院の医師である西澤匡史先生（震災時は本院医療救護班が支援した南三陸町の医療統括責任者として中心的役割を果たされました。）らのご尽力により、志津川ベイサイドアリーナに隣接する形で、仮設診療所として外来診療を再開していますが、入院が必要な患者さんは診療所から約30km 離れた隣町の入院病棟の方へ行かなければなりません。 地域のクリニックも流されてしまい、少ない医師数で広大な医療圏をカバーしている現状の中、患者さんも医療者側も大きな負担を強いられています。

私はここで新患外来、病棟管理及び訪問診療を中心に研修しました。これまで大学病院で研修していた私にとって、今回の地域医療研修は、大変貴重で大切なものとなりました。そして何より南三陸町の人々の心からのおもてなしと皆様との出会いが、この貴重な経験をよりいっそう充実したものにしてくれました。逼迫した状況にもかかわらず、快くチームの一員として受け入れていただき、また地域医療研修として大変有意義な経験をさせて下さった志津川病院の先生方及びスタッフの皆様には大変感謝しております。南三陸町は、私にとって是非ともまた訪れたい大切な場所になりました。

診察中の玉井研修医

小児科病棟の行事報告

小児科　准教授　犬飼　岳史

小児科病棟では、市内の木楽舎（きらくしゃ）つみ木研究所のスタッフが、毎月１回6,000 個の積み木を用いた「積み木広場」を開催してくださっています。平成20年の春から始まったこの活動が、平成25年５月で50回目の節目を迎えました。そこで、入院中に積み木広場を楽しんで退院し、現在も外来に定期通院されている子ども達とその家族を対象にして、８月25日に外来ホールで50回記念の積み木広場を開催しました。当日は、６家族20人が10,000個の積み木で楽しみました。木楽舎つみ木研究所のスタッフのみなさんは、元気になって成長した子ども達との久しぶりの再会に感激していました。

積み木広場

積み木広場に加えて、今年度から毎月１回の定期開催となった病棟行事がもう１つあります。音楽ワークショップ「せっちゃんのミュージックボックス」です。ノルウェー政府公認音楽療法士である井上勢津さんが、NPO 法人絵本カーニバル（タケダ・ウェルビーイング・プログラム助成）の支援で来てくださっています。未就学児と就学児をそれぞれ対象にした約１時間のプログラムで、いろいろな楽器を使ってその音色を楽しみます。特に低年齢の子どもたちは、母親と一緒にリラックスして音の世界を楽しんでいます。プログラムを終えた参加者が、皆とても穏やかな表情になっているのが毎回印象的です。

井上勢津さん（左端）による
「せっちゃんのミュージックボックス」

消防訓練の実施

管理課　総務・予算・資産グループリーダー　萩原　正直

本院では、平成25年10月15日午後１時30分から消防訓練を実施しました。５階西病棟で火災が発生したことを想定し、通報・連絡・放送及び自衛消防隊による初期消火・避難誘導・救護・工作・警備等の訓練を行いました。出火想定場所の５階西病棟では迅速な初期消火、実際の屋内消火栓を使用した放水訓練及び入院患者さんの避難誘導訓練を行いました。

今回の訓練では、日中の火災を想定したため、外来診療棟においても患者さんの避難誘導を行うとともに、病院内への情報伝達を特に重視し、参加者は、院内放送の指示により緊張感を持って機敏に行動し、実際の火災時における対応を習得するよう努めました。

また、閉会式後には複数の病棟（２階、５階、７階）から、屋内消火栓を使用した放水訓練も実施いたしました。参加者は、真剣な面持ちで消火栓の使用方法を確認し、放水体験を通して消火活動への意識を高めました。

訓練日前週には、福岡市内にて病院火災が発生いたしましたが、本院においても起こりうる事態と認識し、教職員皆様のご協力を得て、今後、より一層の防火・防災対策に取り組んで参りたいと思います。

救護所への避難状況報告の様子

院内学級の音楽会

院内学級　米山　瑞穂

病院の中にある「学校」…「院内学級」では1年の最大行事として「音楽会」を行っています。本院に入院している児童･生徒達が楽器を演奏したり、合唱を発表したり、また講師の先生方の生演奏を聴く「会」になります。健康や成長にとって意味深い音楽経験がなされることは音楽療法でも重要視されていますが、教育においても同じだと思います。

児童･生徒達は8月下旬頃から、治療と学習の合間に楽器や合唱の練習を行っていました。初めは個人で、学校へ登校できる時は合奏を練習しました。残念ながら練習した全員が参加することができませんでしたが、医師から許可を得た児童生徒4名が音楽会の運営･発表を行いました。今回は感染対策の観点から規模を縮小しましたが、病院長の島田先生をはじめ医療に携わっている多くの方々に参観していただくことができました。

子ども達の目標に向かって頑張ること、発表したときの達成感、またいつも身近にいらっしゃるご家族の方や病棟の方へ発表できたことは、大きな自信へと繋がったことと思います。餌取先生･小林先生による声楽や岩井先生によるオカリナなど、普段聴くことのできない生演奏も、闘病中の子ども達には癒されるひとときになったことと思います。また、島田先生からは励ましのお言葉と素敵なプレゼントを頂き、笑顔あふれる会になりました。

このような機会をいただいたことと日ごろからの院内学級へのご支援に教職員一同感謝いたします。

島田病院長から励ましの言葉とプレゼントをいただきました。

クリスマスコンサートを終えて

甲府室内合奏団（ヴァイオリン奏者）　宮川　忠生

街で、家庭で、友人や恋人と、お年寄りや子供たちと、色々なクリスマスの時間があったことでしょう。

毎年、やって来るクリスマスですが必ず何かが去年とは異なっているはずです。院内クリスマスコンサートも、聴いてくださる参加者の顔ぶれが毎年、異なるので、今回も新鮮な気持ちで臨みました。もうすぐ退院出来るのでウキウキしている患者さん、検査入院で不安な患者さんなど色々な方がいらっしゃると思います。聴いて下さった方が心なごむひと時を過ごしていただけたらと思い、曲を選び演奏させていただきました。

院内クリスマスコンサートは、患者さんの一日も早い回復を願って日々努力されている病院職員の方々の熱い思いで続いています。この思いが参加者全員の一体感を作っていると感じております。

甲府室内合奏団の方々（中央がヴァイオリン奏者の宮川さん）

クリスマスを院内で過ごすことになった方々がお元気になられて、街で、家庭で、院内コンサートの際に聴いた曲を耳にされた時、院内でのひと時が楽しい思い出となってくれれば幸いです。

微力ながらお手伝い出来たことを嬉しく思い、演奏させていただいたことに感謝しております。この院内クリスマスコンサートが末永く続いていくよう願っております。

4階西病棟ハンドベル部の皆さん

医学部交響楽団の皆さんとヴァンくん

RICE INK　VEGETABLE OIL INK　VOC FREE
この印刷物は環境にやさしいVOC（揮発性有機化合物）成分フリーの植物油型インキを使用して印刷しました。